

こちら特報部

震災がれきの広域処理に反対する市民団体が十二日、参院議員会館で集会を開き、即時全面中止を求めるとともに、旗振り役の環境省を厳しく批判した。

(佐藤圭)

激減 震災がれき

集会には、全国各地でがれき受け入れに反対する市民団体のメンバーら約三十人が参加した。メンバーらは昨年三月以来、広域処理の必要性や焼却・埋め立て処分の安全性について環境省にただしてきた。

十一日の「こちら特報部」で伝えた通り、広域処理のうち、主な対象である宮城県可燃物と岩手県の木くずは三月末、残る岩手県可燃物なども十二月末にそれぞれ終了する。必要量が当初の推計の六分の一に激減したためだ。

広域処理の即時中止を

このため、賛否両派が激しく対立した北九州市や静岡県島田市などは、当初予定を一年繰り上げて三月末に打ち切られる。一方、今月一日に本格焼却を開

市民団体、参院会館で集会

始した大阪市、試験焼却を実施済みの富山県高岡市や富山市では、乱している。広域処理

四月以降も受け入れが続く可能性がある。

「不必要明白」 環境省を批判

の必要性がなくなったのは明らかだ」と指摘した。

汚染ガレキを考える

大阪市の反対運動で昨年十一月に逮捕され、処分保留で釈放された下地真樹・阪南大

会・富山の村山和弘氏は「富山市は、がれき

准教授は「橋下徹市長が自らのメンツに固執

しているだけだ。一日も早く止めたい」と力を込めた。

量が増減したことで混

決議文では①環境省は広域処理が破綻した

ことを認め、多額の税金を無駄に使った責任を明確にすること②大

阪や富山などの広域処理を即時中止すること

などを求めた。

集会に参加した川田龍平参院議員(みんなの党)は「住民の反対運動によって広域処理の拡大を防ぐことができた。一日も早く全面的に止めなければなら

ない」と語った。



震災がれきの広域処理の即時全面中止を求める市民団体のメンバー＝12日、参院議員会館で